



圓頓寺
たより

発行所
山鹿市山鹿55
圓頓寺
☎43-2424

第三十四世

順境院日攝

大暑の候、檀信徒の皆様方におかれましては、愈々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

当山も、本堂並びに諸堂宇の大改修をも滞りなく円成し、一新荘厳された道場

仁王尊像落慶入魂式



にて日々の法務を執行いたしております。

ご報告です。本年三月二十八日の鬼子母神大祭に合わせて、新しい仁王像の落慶入魂式を迎えました。御影石で新調しました仁王尊像は純白にて勇壮。末永く当山の守護を担っていただくこととなります。併せて、山門脇の石垣と塀の工事も完成しました。

これにて寺観も一新いたしました。当山は開かれたお寺であります。お時間のある時にはゆっくりとお参りいただければ幸いです。是非お待ちしております。さて今月はお盆の月でござ



仁王尊像落慶入魂式

ざいます。七月（旧盆地域では八月）は古来より先祖供養の月と定められております。日本ではこの月をお盆と称し、年に一度、御先祖様が、祀り敬う子孫のもとにお帰りになります。したがって、御先祖様をお迎えする私たちは、お供えを捧げ御回向をもつて丁重に御供養することが勤めであります。

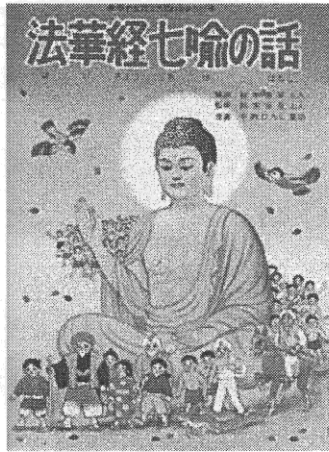
自明ではありませんが、私たちの命は多くの御先祖様

から頂いております。一つの命には、父方母方それぞれ七代さかのぼれば、実に二百五十余りの御先祖様が存在されたこととなります。この二百五十余りの御先祖様の存在が誰一人欠けても、私たちの命は存在することが出来ません。

したがって、私たちの命は、妙なる縁を宿した命の積み重ねであり、故に、個々の命はそれぞれ等しく平等にして唯一のものであります。

この命の因縁果報に深い想いをはせ、命の尊さに気づき、御先祖様に感謝の念をいただくことが、お盆をお迎えする私たちの大切な心となります。また、御先祖様を敬うことは自他の命を尊ぶことと同じであります。

命に合掌



法華経と御遺文の学習

「常に慙んで教化せられ、無上の願を植えしめたまえり。我等無智なるが故に、覺らず亦知らず。少しき涅槃の分を得て、自ら足りぬとして余を求めず。」
『妙法蓮華経五百弟子授記第八』

今号では『妙法蓮華経五百弟子授記第八』を学習してまいります。この章段には法華七喩の一つであります、「衣裏宝珠の喩え」が

説かれております。次のような喩え話になります。

ある貧しい人が、裕福な友人の家を訪れました。たいそうな美食酒宴でもてなされ、久しぶりの満腹と酔いにより中座にて眠りに落ちてしまいました。招いた友人は急用が入り、今すぐにも出かけなければならなくなりました。眠っている貧しき友のためにと、襟の裏に宝石を縫いつけ与えることにしました。後刻この贈物に気付いて幸せになつてほしい。しかし、貧しき人は、この好意に気付くことなく流浪を続けました。長い年月を経て友と再開、友の指摘により、やっとその好意に気付くのであります

た。

この喩え話を読み解きます。裕福な友は仏さま。貧しい人は私たち、宝石は法華経と読み替えれば、教えの真意になります。

仏さまは（貴人）、常に慈悲をもつて、至高の教えである法華経（宝石）をお授け下さる。しかしながら、私たち（貧人）は無智により仏さま慈悲に気付くことが出来ません。かりそめの教え（一度の宴）にて満足して、せっかく頂戴した大切なものに気付くことがありません。私たちは、すでに法華経を頂戴しているのです。探してください。信仰を深めていけば必ず気付くことになるのです。

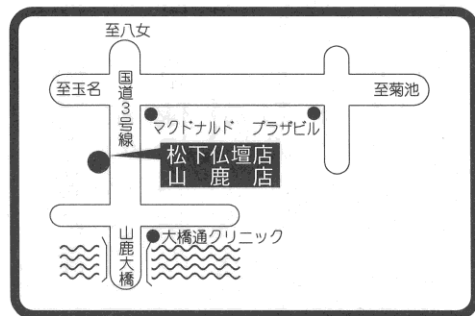
「一代の肝心は法華経、法華経の修行の肝心は不軽品

●仏具のご注文がございましたら、多少にかゝらず配達いたします



株式会社 松下仏壇店

- 大牟田本店**
大牟田市上町2丁目2 上官通り
☎0944-56-3675
- 熊本店**
熊本市中央区上水前寺1-12-12 (東バイパス熊工前)
☎096-384-5666
- 玉名店**
玉名市中平畑1832 玉名高校入口
☎09687-4-4840
- 山鹿店**
山鹿市大橋通り404
☎0968-43-5665





仁王尊像落慶入魂式・祈願文奏上

にて候なり。不軽菩薩の人を敬ひしはいかなる事ぞ。教主釈尊の出世の本懐は人の振舞にて候けるぞ。あなかしこ、あなかしこ。賢きを人といひ、はかなきを畜といふ。」

『崇峻天皇御書』

続きまして日蓮大聖人の御遺文の解説です。大意は次のようになります。世界十仏さまの最高の御経は法華経であり、法華経の修行の大義は不軽品にてお説きであります。不軽菩薩が路

一月十三日、新年の挨拶があちこちで交わされ、今年最初の六大法要「初講法要」が厳修されました。

二回目の尼僧法話

初講法要に先立ち、大太鼓とお題目でお迎えし、住職が長洲町「日感寺・塩田和香上人」を紹介し、法話がありました。塩田上人は日蓮

宗祖御報恩初講法要

上に立って全ての人々を礼拝したのは、何のためであったのでありましょうか。仏さまの出世の本懐は、こうした人としての平素の行動を教えたものであります。よくよくお考えになられよ。賢いものを人と言ひ、愚かなものを畜生と言うのであります。



塩田上人・御遺文拝読

大聖人の御遺文拝読、参詣の皆様と一緒にお題目を三

私たちが法華経修行者は、日常の振る舞いが大切であります。つまり、自他彼此の命、そしてその命に宿る互いの仏性を尊び合う精神が、法華経の真髓であり、仏さまの一番の願いでもあります。仏さまの本意。賢くあれ。人としあれ。

日々お互いに合掌。

この街と生きていく
face to face

熊本第一信用金庫 山鹿支店
〒861-0501 熊本県山鹿市山鹿1616-7
TEL 0968-44-4125

唱され、新年の挨拶の後、「長洲町にありますお日様を感じるお寺、日感寺より参りました塩田和香と申します。」と自己紹介され、本年最初の法話に招かれたことに御礼と、早起きをしてお化粧もすっかりしてきたとユーモアたっぷりな法話を始められ、圓頓寺様にお招きいただいたのは平成二十八年の初講で、今回は二回目です。お坊さんの世界は男性が多い世界で、女性僧侶ということと名前と顔を覚えていただけるなど良かったな〜と思います。

泣く赤ちゃんにお経

一昨年一月姪っ子が誕生し、師父母が大変可愛がっています。可愛い赤ちゃんですが、泣き続けると悩み種のそんな時は私の出番です。赤ちゃんの抱っこが苦にならず、泣きたいときは泣こうと本堂へ足を運び、日蓮大聖人様、鬼子母神様に泣き声を聞いてもらおうと本堂を回っていますと、調子のいい時は眠ってくれますが、思うとおりにいくとは限りません。その時には秘策がございませぬ。赤ちゃんの耳元で『自我得仏来所経諸劫数：』とお経を読み聞かせます。赤ちゃんもありがたいお経だと分かるのでしようか、百発百中で寝てくれます。

お題目を口に

最近残薬問題が医療の現場で注目されています。自分の判断で薬を飲んだり飲まなかったりして、自分の命を危険にさらすという問題です。薬は言われたとおりに毎日飲む、口にするから意味があります。これはお題目も同じです。声に出して『南無妙法蓮華経』とお経を読む効果、ありがたさは近年科学的に証明されています。口を動かして声を出すというのは、私たちの命を元気に保つ上で大切な役割です。入院・治療をしていた方が自分の口を通してご飯を食べられるのか、食べられないのか、その後の治療を左右する大きな分岐点になるそうです。



口が持つ三つの働き

二〇一六年のTV放映で口が持つ働きの特集がありました。①口が動けば唾液

せしモニホム

宮川葬祭 TEL (0968) 43-2211
フリーダイヤル 0120-45-0948

山鹿 天龍会館 TEL (0968) 44-0444

が分泌され、その殺菌能力で感染症が防げる。②声が出せれば喉の筋肉が保たれ鍛えられて、飲み込む力がつく。誤嚥を防ぎ肺炎予防となる。③自分の声を自分の耳で聞くことが出来たら脳への刺激となって認知力が保たれる。

お題目をご家族にも

だからこそ、日蓮大聖人様も大聖人様に続くたくさんの方が、「お経は声に出すんだよ、口にお題目をいただくんだよ。」と何百年も言われてきたことは、科学的に証明され、医療的に



も正しいことで、皆様も日々の生活の中でお題目も口に出していただき、身体の面と心の面とから大切な命を養っていただきたい。と同時に自身だけでなく皆様の生活を支えている方々、ご家族の皆様にもお勧めして

いただきたいのです。必ず来る**生老病死**のご供養の形、信仰の形は様々ですが、ご縁をいただいてご法話にお招きいただいたからには、しっかりとお伝えしなければいけないことがございます。人はこの世に生まれてきた限り必ず歳を取り、病気にかかり、どなたもいつの日か命を終える日を迎えます。しかも病氣を選べません。どうやって命の最後を迎えるか選べません。ご自身、大切な方々の生老病死。思うとおりに

いかないことを目の前にした時に、必ずお祈りの心が必要な時、心の支えが必要な時がやってきます。苦

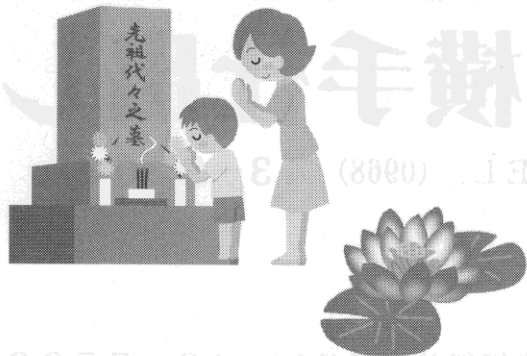
熊本地震の時も、大切な方々の無事を祈りながら過ごされたと思います。一人じゃなく、ご先祖様も仏様も一緒に生きてくださっていると、自信をもって思えることの心強さ、命を終えて

元気な時からお題目



必要な時、心の支えが必要な時がやってきます。苦

法話・墓持・祭会・奉仕・勤行



ビル新築工事から増改築まで何でも致します

住宅金融公庫其の他手続代行

有限会社 **井上組**

井上勝介

熊本県山鹿市下吉田691番地

TEL. 43-2204

から仏様のお世話になるのではなく、今生きているこの瞬間を仏様と一緒に生き抜くことが、法華経の教えです。皆様にはお元気な時から声に出して、『南無妙法蓮華経』と身体に心に沁み込ませていただきたい。何か思いがある時だけでなく毎日にさりげない日々の幸せを、仏様とご先祖様とお仏壇をとおして会話をする。こんな後ろ姿が次の世代の人たちへの信仰へとバトンタッチしていきます。

篤信の信仰・ひばりさん

歌声で戦後の日本を支えた歌謡界の女王、美空ひばりさん（本名・加藤和枝さん）。ひばりさんと法華経のご縁は亡くなられたお父さんのご葬儀がご縁でした。日本中を歌い歩く中でもお寺、お墓へのご供養は欠かされませんでした。



ひばりさんお題目

法話 徳田宗教
長洲町 日感寺
塩田和香上人

四十四歳の時、何よりの理解者であったお母様が亡くなられます。更に弟様が亡くなり数年間で三人を失われました。やり場のない孤独に「ネシー」とたばこに手が伸びました。そんな孤独で淋しい毎日の中でも、月に一度菩提寺のご住職様が回向に見え、ひばりさんは住職の後ろに座ってお題目をお唱えになります。

家族を見送る淋しさ
月命日のお経が終わりひばりさんは住職に、「家族を一人また一人と見送る淋しさ、加藤和枝を知っている人は私を置いて旅立つばかり。人目を気にせず泣いてみたい。」と住職に胸の内を話されました。

ひばりさんは菩薩様
住職は、「和枝さんあなたの孤独はよく分かる。人は必ず命を終えます。大切なご家族が身をもってあなたに教えてくれたように、いつどこでどうやって命を終えるのか自分じゃ決められない。私たちは死に方は選べない。選べるのは生き方です。死んだ方がましだ」と思う人は、あなたの歌を聴いて踏みとどまって、あなたの歌は人の命を救う薬。寂しいかもしれない。苦しいかもしれない。自分の身を削って歌うあなたの姿は人じゃない。菩薩様です。菩

大小宴会・会食
横手会館

山鹿市九日町(八千代座前)

割烹よこて

祝儀・仏事・会席・鉢盛・折詰
横手仕出し

TEL. (0968) 43-2206

肥後銀行前 TEL. 43-7500

薩様の自覚をもって歌いなさい。」

禁酒したひばりさん

「お上人様、私が菩薩様。知らず知らずの内にそんなありがたい道を歩かせていただいていたんですね。菩薩様じゃーお酒は飲んでいけませんね。」とひばりさん。飲みかけのヘネシーの瓶を住職にお渡しになり、「お酒は止めます。でも歌は止めません。」

名曲・川の流れるように

さまざまな病、迫りくる命の終わりを感しながらも、命をかけて歌われた最後の歌、代表曲こそが『川の流れるように』です。法華経とひばりさんのご縁を知ってからこの歌詞をお聞きしますと、皆様何かお感じになるものがあります。命の道しるべとして身をゆ

だねられたのが法華経の教えです。我が身を削りながら人々の生きる命の薬であろうと歌い続けられたひばりさん。享年五十二歳でした。女性として初めて国民栄誉賞を受賞されました。



ひばりさんの法号

『慈唱院美空日和清大姉』の法号を見るだけで、美空ひばりさんだと思ってしまうような温かいお名前です。慈しみの中で唱える。唱えるという字が日々口にする書きまますように、沢山の方々が歌声に感動するひばりさんの声には、日々唱えていら

しゃったお題目の心がじんわりと沁みこんでいます。お題目をお唱え下さいの支

皆様方も「南無妙法蓮華経」をお唱えいただくことで、心に身体にじんわりと法華経の心を沁みこませていただきますようお願いいたします。お話をさせていただきますと締められ、日蓮大聖人のご遺文拝読、参詣の皆様と一緒に題目を三唱され、法話を終わられました。

宗祖第七三八年忌法要

恵海上人十三回忌法要

休憩後、大太鼓・合掌お題目で導師の英人上人、院首英知上人、秋吉上人、福山上人、塩田上人をお迎えしました。住職が焼香、切火、弘子で御宝前を清め導師席に向かわれました。読経が始まり、『謹み敬って勧請し奉

熊本日新聞

(有)熊日山鹿南販売センター

山鹿市大宮町439

阿蘇品 雅彦

社会福祉法人 大道福祉会

若葉保育園

理事長 阿蘇品 洋介

毎度ありがとうございます

米・肥料・農薬・たばこ

(全商品配達致します)

(有)あそしな米穀

代表取締役 阿蘇品 和彦

☎ (0968) 43-2526

無料電話 0120-23-2526

山鹿市大宮町641-2

三十二世恵海上人十三回忌供養



る：本日宗祖第七三八遠忌
報恩初講会に遭い追う処：
本日正当第十三回忌法会に
遭い追う処平成十九年一月
二十六日御遷化、当山第三
十二世一妙院日淳上人荒木
恵海上人：』と勸請され、式
衆が如来寿量品第十六を読
経中、参詣の檀信徒が受付
の時に申し込まれた特別祈
禱「宗祖日蓮大聖人報恩感

謝供養」、「先祖代々之精靈
位追善供養」、「一妙院日淳
上人十三回忌精霊追善供養」
などを一つ一つ導師席で読
み上げられ、婦人会代表に
よる恒例の献膳もあり、大
太鼓・団扇太鼓で「南無妙
法蓮華経・南無妙法蓮華経」
と唱題行が行われました。



住職・参詣に感謝
法要終了後住職上人が、
平成三十一年初めてのの六大

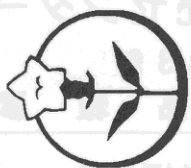
法要「初講法要（日蓮大聖
人の初命日忌、第三十二
世一妙院日淳上人荒木恵海
上人の正当第十三回忌）」
参詣への感謝。日蓮大聖人
の御正月のお言葉『花は開
いて木の實となり、月は出
でて必ず満ち、灯は油をさ
せば光を増し、草木は雨降
れば榮う、人は善根を成せ
ば必ず榮う』から、日々に
善根、功德を積むことが大
切です。と触れられ、檀信
徒の皆様が価値ある一年を
過ごされ、ご多幸であるこ
とを祈念されました。

総代・ご支援に感謝

栗原筆頭総代が、新年の
挨拶、昨年の菩提寺興隆ま
た本堂改修へのご支援、ご
協力に感謝を申し上げます。
今後とも檀信徒の皆様を支
援、ご協力をいただき、菩提
寺興隆に全力を尽くして邁

歴史と文化の街 日本一の装飾古墳と八千代座

山鹿温泉



清流苑

鹿門亭

〒861-0501 熊本県山鹿市下町1768
電話 山鹿 (0968) 43-2101(代)
ファックス (0968) 43-5153

進したいと思っております。
と挨拶されました。
参詣の檀信徒の方々は檀
信徒会館へ移動し、当番地
区・婦人会の方が準備され

名月の元・寒修行始まる



大寒の一月二〇日、スー
パームーンではないかと思
える大きな月に照らされ、
寒修行が始まりました。出
発の午後七時に合わせてお
寺に到着しましたが、すで
に寒修行衣の住職、福岡・妙
教寺の松尾上人、圓頓寺の
提灯を持った先導役の中原

たおときをいたただかれ、申
し込まれたご祈祷の塔婆、
お札などを手に帰途につか
れました。(編集委員・谷
十次郎、朝岡正十郎)

総代と最後尾役の松下仏壇
店の方、団扇太鼓を持った
行衣・法被の方、お接待の
方々が揃っておられ、あわ
てて本堂へ団扇太鼓をとり
に行き、法被を着て本堂前
に急ぎました。
午後七時になり住職が本
堂前で出立の祈りを捧げ、
「寒修行が始まりました。
九日間皆で頑張りましょう。」
と挨拶して出発しました。
初日は圓頓寺く花見坂く九
日町く日吉町く上町く松坂
町く東通町く堀明町く上広
町を通りお寺へ帰る短めの

コースで、行脚行をいたし
ました。

お寺へ帰着後団扇太鼓と
行衣・法被を片付け、檀信
徒会館に着席。中原総代が
今日の参加は十七名、時間
は四十分と報告後、お題目
三唱してお接待を受けまし
た。今日は松尾上人から差
入れがあり、美味しく福岡
の味をいただきました。

綺麗な月明かり・三日目

二十二日は早めにお寺に
行き、準備を致しました。
住職の出立の祈りと挨拶の
後出発、今日は大宮通く大
宮町く原町く栗林く桜町く
上広町でした。毎日数名か
ら十名以上の方からお布施
を頂戴しますが、桜町でお
布施をお盆にのせて渡され、
寒行札をお盆で受け取られ
たご婦人がおられました。
今日の参加は十九名、時間

平成十七年度～令和四年度

立正安国

お題目結縁運動

日蓮宗



マルカメ醤油・味噌
灯笼

山鹿市中1000-2
☎ 44-3131



寒修行の先導は中原総代

は五十分で、防寒対策バツ
チリで参加しましたので、
汗を感じた行脚行でした。

二日目は院首上人代行

なお前日の二日目は、お
檀家さん宅でお通夜が営ま
れましたので、住職に代わっ
て院首英知上人が寒修行の
先導を務めました。

四日目は七十分

二十三日は熊入町方面で
した。今日感じたのは、行脚

中横断歩道でいつもは待つ
ことが多いですが、歩行者
用信号機がタイミングよく
変わり、待たずにスムーズ
に渡れたところが多かった
ことでした。また、ご夫妻
で寒修行団を待つておられ
た方、二階の窓から手を振っ
てくれた小さな男の子もい
ました。今日の参加は十八
名、時間は七十分でした。

小さなお手々でお布施

寒修行六日目は中村を行
脚行しました。途中三・四
歳くらいの女の子がお母さ
んと一緒に家の前で待つて
いてくれて、中原総代に封
筒を渡し、寒行札を受け取っ
ていました。今日の参加は
十九名、時間は五十分でし
た。

大寒らしい七日目

昼間に短時間でしたが雪
が舞い、時折冷たい小雨が



降り冷え込んだ二十七日は
宗方・大橋通を巡回しまし
た。参加した前日までの四
日間私は手袋なしでしたが、
この日は手袋をつけても手
がかじかんだ寒修行でした。
今日の参加は十七名、時間
は四十五分でした。

追っかけてきた少年

まいつもしんがりを務める
松下仏壇店の人が風邪のた

JA鹿本(株)鹿本広域福祉センター総合葬祭会館

やすらぎの里



天 寿 苑

〒861-0535 熊本県山鹿市南島1246(山鹿大橋そば)

TEL. 0968-44-0983

葬儀場・法事会館を併設した総合葬祭会館です